

2013年3月期 第2四半期 決算報告

2012年11月2日
株式会社クレスコ
経営企画室

1.1. 決算のトピックス

連結

▶ 連結経営成績に関する主な事項

- ⊕ 売上高 … 90億19百万円 (前年同期比 7.3%増)
- ⊕ 営業利益 … 5億21百万円 (前年同期比 13.4%増)

ソフトウェア 開発事業	金融・保険分野	前年同期を40百万円下回り、34億48百万円(前年同期比1.1%減)
	公共・サービス分野	前年同期を1億40百万円上回り、23億6百万円(前年同期比6.5%増)
	流通・その他の分野	前年同期を3億63百万円上回り、17億22百万円(前年同期比26.7%増)
組込型 ソフトウェア 開発事業	通信システム分野	前年同期を1億20百万円上回り、5億5百万円(前年同期比31.2%増)
	カーエレクトロニクス分野	前年同期を1億96百万円下回り、4億51百万円(前年同期比30.3%減)
	情報家電等・その他の分野	前年同期を2億45百万円上回り、5億54百万円(前年同期比79.6%増)
商品・製品販売		前年同期を21百万円下回り、29百万円(前年同期比41.9%減)

▶ 連結財政状態に関する主な事項


- ⊕ 総資産 … 122億17百万円 (前期末比1億95百万円減)
- ⊕ 自己資本比率 … 62.8% (前年度末 61.6%)

1. 期末決算のポイント

1.2. 第2四半期の振り返り

単体

全般傾向

- ❖ **ビジネス系のソフトウェア開発**
 お客様の引き合いや案件は、引き続き増加傾向にあるものの、全体では中小規模の案件が多く、受注競争も厳しい。新規顧客開拓や一括請負案件の獲得に注力。
- ❖ **組込型ソフトウェア開発**
 通信システム分野は、スマートデバイス関連の開発案件が増加したもののカーエレクトロニクス分野は、車載関連の案件が減少。その他情報家電は、カメラ関連分野の案件が増加。全体では稼働率が高水準に推移。
- ❖ **サービスビジネス事業**
 クラウドサービスは、代理店展開等、新たなビジネスモデルに注力し、堅調。スマートフォンビジネスは、新規案件を受注、事業基盤を強化へ。セキュリティビジネス(製品名:セキュアダイブ  SecureDive)は、ニーモニック認証を組込み、スマートフォン向けにサービスを拡大。

課題






組込型関連ビジネスの新規顧客開拓

サービス関連ビジネスの販売モデル強化

一括請負、プライム案件の受注獲得

1.3. 第2四半期の振り返り①

子会社

	クレスコ・ イー・ソリューション	<ul style="list-style-type: none">◆ERP (SAP/R3)の導入コンサルティングが前期に引き続き順調◆コンサルティングビジネスも堅調に推移◆新ソリューション開発と人材採用が課題
	ワイヤレス テクノロジー	<ul style="list-style-type: none">◆製品販売における大型案件への依存度が高く、受注が安定せず◆自社製品の開発・販売、受託開発案件も低迷◆組込みモジュールの差別化が課題
	クレスコ・ コミュニケーションズ	<ul style="list-style-type: none">◆収支が悪化していたマーケティングソリューション事業(沖縄センター)を ガイアックスに譲渡◆SI案件の拡充および新規事業の立上げが課題
	クレスコ・ アイディー	<ul style="list-style-type: none">◆主力のセキュリティロッカーの販売は、 クレスコグループのクロス営業により、堅調に推移◆RFIDタグや関連製品については専門商社として事業を展開
	アイオス	<ul style="list-style-type: none">◆主力の受託ソフトウェア開発が順調に推移し、稼働率も回復◆プロジェクトの採算管理を強化し、「利益の出る体質」への改善が課題

1.3. 第2四半期の振り返り② 子会社



クレスコ九州

- ◆地場企業の受注拡大により、堅調な伸び
- ◆クレスコグループとの営業連携の他、製品販売やニアショア開発の実現、ビジネスパートナー拡大が課題



クレスコ北陸

- ◆独自のITソリューションを武器に、地場企業の深耕に注力し、受注拡大
- ◆クレスコグループの連携によるシナジービジネスとサービス力強化が課題



科礼斯軟件(上海)

- ◆中国進出企業の支援ビジネスを事業の柱に、マーケティングや営業活動を実施
- ◆新規案件を受注し、グローバルビジネスに弾み

【注】「インフィニード」は、2012年4月1日に「クレスコ九州」へと社名変更いたしました。

【注】2012年4月1日に「ソラン北陸」を子会社化し、2012年7月1日に「クレスコ北陸」へと社名変更いたしました。

【注】2012年7月1日に「科礼斯軟件(上海)有限公司」を設立いたしました。

2. 財務経営成績 等

2.1. 損益計算書 [要約]

連結

[単位:百万円未満切捨]

	2012年3月期 第2四半期 ＜実績＞	2013年3月期 第2四半期 ＜実績＞	前年 同期比	2013年3月期 中間期 ＜2012/5/7公表＞
売上高	8,407	9,019	107.3%	9,200
売上総利益	1,309 (15.6%)	1,423 (15.8%)	108.7%	1,541 (16.8%)
営業利益	459 (5.5%)	521 (5.8%)	113.4%	550 (6.0%)
経常利益	520 (6.2%)	579 (6.4%)	111.3%	600 (6.5%)
四半期純利益	228 (2.7%)	335 (3.7%)	146.4%	320 (3.5%)
EPS 円/株	20.65	31.06	—	29.64

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

2.2. セグメント売上高の比較

連結

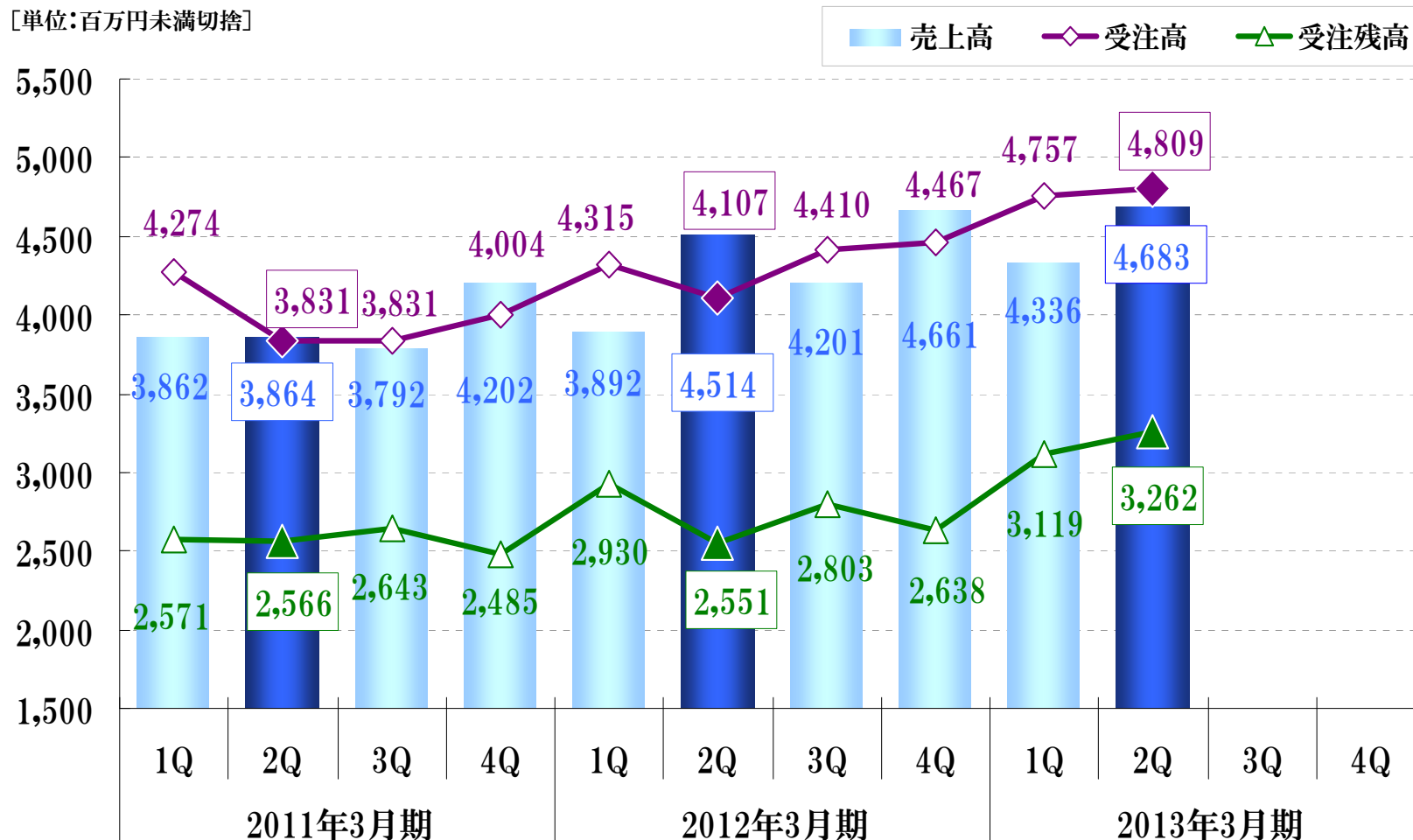
[単位：百万円未満切捨]

大区分	セグメント	2012年3月期 第2四半期	2013年3月期 第2四半期	増減	増減率
	小区分				
ソフトウェア	金融関連	3,488	3,448	▲40	▲1.1%
	公共・サービス	2,165	2,306	140	6.5%
	流通・その他	1,359	1,722	363	26.7%
	計	7,014	7,477	463	6.6%
組込型 ソフトウェア	通信システム	385	505	120	31.2%
	カーエレクトロニクス	647	451	▲196	▲30.3%
	その他	308	554	245	79.6%
	計	1,341	1,511	170	12.7%
商品・製品販売		51	29	▲21	▲41.9%
全計		8,407	9,019	612	7.3%

2.3. 売上高・受注高・受注残高の推移

連結

[単位:百万円未満切捨]



2.4. 損益計算書 [要約]

単体

[単位:百万円未満切捨]

	2012年3月期 第2四半期 ＜実績＞	2013年3月期 第2四半期 ＜実績＞	前年 同期比	2013年3月期 中間期 ＜2012/5/7公表＞
売上高	5,990	6,005	100.3%	6,350
売上総利益	901 (15.0%)	956 (15.9%)	106.1%	1,022 (16.1%)
営業利益	401 (6.7%)	426 (7.1%)	106.3%	450 (7.1%)
経常利益	506 (8.5%)	495 (8.3%)	97.9%	530 (8.3%)
当期純利益	264 (4.4%)	284 (4.7%)	107.3%	300 (4.7%)

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

2.5. 損益計算書 [要約]①

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・イー・ソリューション [資本金: 200]		 ワイヤレステクノロジー [資本金: 50]		 クレスコ・コミュニケーションズ [資本金: 50]	
	2012年3月期 第2四半期	2013年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期	2013年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期	2013年3月期 第2四半期
売上高	664	703	79	48	69	62
売上総利益	145	158	14	▲3	16	13
営業利益	54	64	3	▲15	▲8	▲10
経常利益	55	66	3	▲15	▲8	▲9
当期純利益	31	42	2	▲9	▲4	5
持分比率	100.0%	100.0%	87.5%	87.5%	86.0%	86.0%

2.5. 損益計算書 [要約]②

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	クレスコ・アイディー [資本金: 100]		アイオス [資本金: 313]		クレスコ九州 [資本金: 50]	
	2012年3月期 第2四半期	2013年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期	2013年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期	2013年3月期 第2四半期
売上高	4	13	1,533	1,852	79	89
売上総利益	▲0	3	213	227	10	11
営業利益	▲24	▲12	40	62	▲3	▲0
経常利益	▲24	▲12	45	64	▲1	▲0
当期純利益	▲24	▲14	17	43	▲1	▲0
持分比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【注】「インフィニード」は、2012年4月1日に「クレスコ九州」へと社名変更いたしました。

2.5. 損益計算書 [要約]③

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ北陸 [資本金: 50]		 科礼斯軟件(上海) [資本金: 70]	
	2012年3月期 第2四半期	2013年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期	2013年3月期 第2四半期
売上高	-	285	-	0
売上総利益	-	49	-	0
営業利益	-	16	-	▲2
経常利益	-	16	-	▲1
当期純利益	-	10	-	▲1
持分比率	-	100.0%	-	100.0%

【注】 2012年4月1日に「ソラン北陸」を子会社化し、2012年7月1日に「クレスコ北陸」へと社名変更いたしました。

【注】 2012年7月1日に「科礼斯軟件(上海)有限公司」を設立いたしました。

|3.1. 基本方針

次世代クレスコの創生
推進元年

3.2. 重点施策

- ▶ 「技術と品質のクレスコ」の推進
原点に回帰し、企業グループ全体の「品質マネジメント力」の底上げを実現する。
- ▶ サービス事業のビジネスモデル強化
オリジナル製品(セキュアダイブ、インテリジェントフォルダ等)の**拡販戦略**実行。
- ▶ グループ経営基盤の拡大と営業拠点の広域化
M&Aによる「**複合IT企業化**」の推進と、**地方マーケット**への参入。
- ▶ 海外事業の推進
海外進出する企業を支援すべく、**現地法人**を設立。
- ▶ 技術研究所の設立
時代を読み、トレンドをつかみ、人を育成し、**ビジネスを生み出す**専門部門を設立。

3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など①

1 経営環境

当中間期(平成24年4月1日～平成24年9月30日)の経営環境は、震災の影響で落ち込んだ前年度の反動や効率化投資による国内需要に牽引され、設備投資や雇用も回復基調となり、IT投資も改善傾向でございました。一方で、欧州債務危機や円高、日中韓の領土問題といった懸念も多く抱えておりました。このような経済環境下において、情報サービス産業の7～9月のDI値(JISA調査)は、第1四半期同様、IT投資が回復傾向にあることを示し、改善基調を裏付けております。

2 2012年度のITトレンド

ITはビジネスを拡大する不可欠なツールであり、ITを含む設備投資は、慎重な姿勢が維持されるものの着実に実施されるものと予測しております。投資対象のトレンドは、

- 「スマートデバイスの業務活用とセキュリティ対策」
- 「ITを活用した事業継続計画および災害対策(安否確認含む)」
- 「ERP(基幹業務の統合)の導入と基幹システムの見直し」
- 「データ連携及びデータアナリティクス」
- 「ソーシャルメディアおよびクラウド・サービスを利用した業務改善」

が主流になる、と考えております。

3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など②

3 企業間連携

企業間連携は、グループ企業のみならず、優れたサービス商材をお持ちの企業や強力な販売網・販売チャネルを有する企業と、積極的に進めております。

ITのサービスは、「お客様のニーズに如何に早く、お応えできるか」に尽きるものです。もはや1社ですべてが完結できる時代ではない、と認識しております。

企業や業界の壁を越え、「メインITソリューション・パートナー」として、真の「ワンストップ・サービス」を実現すべく、戦略的パートナーシップを宣言し、サービス向上に努めてまいります。

4 株主還元方針

株主還元方針といたしましては、何よりも業績に裏付けられた適正な利益配当に重点をおいており、特段の株主優待は行っておりません。

なお、配当に関しましては、当社の経常利益を基に特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業績や結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。